

科学研究費補助金（特別推進研究）公表用資料  
〔事後評価用〕

平成17年度採択分

平成21年 3月31日現在

研究課題名（和文）アジアバロメーターを通じたアジア人の生活・規範・  
価値の実証研究

研究課題名（英文）An Empirical Study of Life Styles, Norms,  
and Values through the AsiaBarometer

研究代表者

猪口 孝（INOUCHI TAKASHI）

中央大学・法学部・教授



研究の概要：「アジアの普通の人々の日常生活」に焦点をあて、欧米の世論調査と比較できる方法を使いながら、アジア社会の歴史的、社会的、経済的、政治的、文化的、言語的な特異性を十分に配慮した研究設計によって、アジア社会の貴重な世論調査データを作成した。世界で初となるアジア29の国と社会に暮らす5万人弱の精密で体系的なデータが出来上がった。国別プロフィール分析論文の刊行に加えて、比較政治学、比較社会学、国際関係論、医学などの幅広い学問分野で比較分析が行われ、多くの命題が仮説検証された。中には非常に高い評価を受けた書籍や論文もある。本プロジェクトのホームページでは現在2007年度調査までのすべてのデータが一般公開されており、世界中の様々な人々によってデータがダウンロードされている。

研究分野：政治学

科研費の分科・細目：社会科学・政治学・政治学

キーワード：日常生活、世論調査、アジア、比較研究、信頼、しあわせ、満足

### 1. 研究開始当初の背景

アジア地域ほど多様性、発展性に富む地域は他にない。しかし、このアジアが目覚ましい経済発展と総生産の増加に比べ、アジア全域に関する社会科学の実証的データが驚くほど少ない。アジア社会が「実証社会科学体系的データの砂漠」と言われていたゆえである。

### 2. 研究の目的

本研究計画は「アジアの普通の人々の日常生活」を欧米の世論調査と比較できる方法を使いながら、アジア社会の歴史的、社会的、経済的、政治的、文化的、言語的な特異性を十分に配慮した研究設計によって、アジア社会の貴重な世論調査データを作成する。そして学術的分析成果を発表し、さらにアーカイブに保存することにより、実証社会科学の研究インフラを整備・構築し、全世界でその成果を共有することを目的とする。

### 3. 研究の方法

代表者は、平成14年度にアジア・バロメーターを概念的に提唱し、平成15年度に本研究計画のパイロット的世論調査をアジア10カ国（中国、インド、日本、韓国、マレーシア、ミャンマー、スリランカ、タイ、ウズベキスタン、ベトナム）で実施した。この研究

成果は平成17年3月に英文学術書（ソースブック）として刊行した。平成16年度は、第2回目のパイロット的世論調査を東南アジア諸国連合と日韓中の13カ国で実施した。このように研究代表者は概念化、調査実施、研究分析、そして成果刊行を主導して行った。

おおまかな研究スケジュールとして、春に質問票を作成し、夏に各調査対象国で世論調査を実施し、秋にデータ分析及び論文を執筆し、そして冬に分析結果をまとめた論文をワークショップで討論し、その成果を学会・シンポジウムで発表することを基本にした。

調査対象国は、平成17年度（アフガニスタン、ウズベキスタン、カザフスタン、キルギス、タジキスタン、トルクメニスタン、モンゴル、インド、スリランカ、パキスタン、バングラデッシュ、ネパール、ブータン、モルディブ）、平成18年度（日本、中国、韓国、台湾、香港、ベトナム、シンガポール）、平成19年度（インドネシア、カンボジア、ミャンマー、ラオス、タイ、マレーシア、フィリピン）、平成20年度（日本、中国、インド、機能的なアジア：米国、ロシア、オーストラリア）である。

国別プロフィール分析論文は主に、現地の社会学者が執筆し、仮説検証的・比較分析論文は主に、日米の社会学者が担当した。

#### 4. 研究の主な成果

2008年度調査が完了したことで、アジアに関しては世界で初となるアジア29の国と社会に暮らす「普通の人々の日常生活」に関する精密かつ体系的で膨大なデータが出来上がった。その標本総数は49158人、機能的なアジア3カ国を加えると52215人に上る。現在、本研究プロジェクト専用ウェブサイトでは2007年度調査までのすべてのデータが一般公開されており、大学教師や研究者、学生、企業に勤める投資家、政府の役人など世界中の人々によってダウンロードされている。2009年5月21日の時点でその数はのべ約550名に上る。そして、本研究プロジェクトのデータを分析したり、分析結果を引用したり、本プロジェクトを論説したりした刊行済みの文献の数は同時点で262編存在することを確認した。うち124編が、本研究代表者、研究分担者、連携研究者によるものである。

50編に及び国別プロフィール分析論文は主に本研究協力者である現地の社会学者によって執筆され、刊行済みの4冊の英文学術書（ソースブック）に収録されている。うち3冊は日本語版としても既に刊行された。106編に上る比較研究分析論文の中で、78編は本研究代表者、研究分担者、連携研究者によるものであり、比較政治学、比較社会学、国際関係論、医学など幅広い学問分野で比較分析が行われ、多くの命題が仮説検証された。例えば、比較政治学の分野では、社会資本（信頼）の多次元性（人間観、功利主義的計算、そして体制との調和）が実証でき、それによってアジアの政治文化の類型が提示できた。マクロな政治体制の制度的な累積が、ミクロの個人の人々の政治体制選好を統計学的に有意に規定するという命題が実証された。比較社会学の分野では、アジアでは多くの価値観をめぐっては、国家間の相違が階級・階層よりもはるかに大きいという命題が実証された。中国の都市住民の中では、低所得者層の方が外来人口の流入に対して強い抵抗感を持つ。都市中間層は確実に拡大しているが、その多くは民主化の積極的な担い手というよりは現状維持を求める保守的な性格を持つ。健康医学の分野では、アジア29カ国では人々の健康に対する満足度はメディアに対する信頼と相関関係にあることが統計学的に実証されたこと等が挙げられる。上記のソースブックを含む、代表者らの124編の学術論文や図書の中には国内外で高い評価を受けたものが少なくない。

#### 5. 得られた成果の世界・日本における位置づけとインパクト

本研究プロジェクトのウェブサイトから全世界に公開中の調査データをダウンロードした人数はのべ約550名に上る。262編の

本研究プロジェクトに関する文献の中の138編が本研究代表者・研究分担者・連携研究者以外の世界中の研究者やマスコミ、政府役人等によるものである。また、本研究代表者らによる研究結果は国内・国外のマスコミに取り上げられ紹介された。そして、ソースブックに関しては、英文学術誌 *Journal of Asian Studies* と *Social Science Japan Journal* で高い評価を与えている書評も2点刊行された。比較研究分析に関しては、園田連携研究者の著書は、「第20回アジア・太平洋賞特別賞」を受賞した。3つの英文学術雑誌 *International Relations of the Asia-Pacific* (Oxford Univ. Press)、*Japanese Journal of Political Science* (Cambridge Univ. Press)、*Social Indicators Research* (Springer)では特集号が編集された。そして、本プロジェクトについて、研究代表者に「第5回国際コミュニケーション基金優秀研究賞」が贈られた。

#### 6. 主な発表論文

（研究代表者は太字、研究分担者は二重下線、連携研究者は一重下線）

1. Shin, Doh Chull and **Takashi Inoguchi**, "Avowed Happiness in Confucian Asia: Ascertaining its Distribution, Patterns, and Sources," *Social Indicators Research*, Vol. 92, No. 2, 405-427 頁、2009年。
2. **Inoguchi, Takashi** and Satoru Mikami, "Legitimacy and effectiveness in Thailand, 2003-2007: perceived quality of governance and its consequences on political beliefs," *International Relations of the Asia-Pacific*, Vol. 8, No. 3, 279-302 頁、2008年。
3. Tokuda, Yasuharu and **Takashi Inoguchi**, "Interpersonal Mistrust and Unhappiness Among Japanese People," *Social Indicators Research*, Vol. 89, No. 2, 349-360 頁、2008年。
4. **Inoguchi, Takashi**, Sanjay Kumar, and Satoru Mikami, "Macro-Political Origins of Micro-Political Differences: A Comparison of Eleven Societies in East and South Asia," *Japanese Journal of Political Science*, Vol. 8, Pt. 3, 387-408 頁、2007年。
5. **Inoguchi, Takashi**, Satoru Mikami, and Seiji Fujii, "Social Capital in East Asia: Comparative Political Culture in Confucian Societies," *Japanese Journal of Political Science*, Vol. 8, Pt. 3, 409-426 頁、2007年。

ホームページ等

<https://www.asiabarometer.org/>